

平成27年度 終了評価書

- 研究機関 : 富士通株式会社、沖電気工業株式会社、日本大学、北陸先端科学技術大学院大学
- 研究開発課題 : 先進的ICT 国際標準化推進事業
(スマートコミュニティにおけるエネルギーマネジメント通信技術)
- 研究開発期間 : 平成 24 ～ 26年度
- 代表研究責任者 : 高橋 英一郎

■ 総合評価(5～1の5段階評価) : 評価4

■ 総合評価点 : 23点

(総論)

国際標準の獲得を確実に実施しており、その他シミュレータのオープンソース化、大規模な実験検証等も評価できる。今後の社会展開に向けた取組に期待。

(コメント)

- 当初の目標は達成している。一方、社会展開に向けた課題が見えてきた段階であり、実現に向けた今後の努力に期待。
- 特に、標準化提案、オープンソース化、大規模な実験検証等を実施しており、良好と評価。
- 国際標準を獲得するという第一目標が確実に達成されている点を高く評価。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

政策的に重要性の高い研究開発。また、IoT が注目される中、エネルギー分野に絞った研究開発を先行して実施しており、当初計画時以上にその意義が高い。

(コメント)

- 社会的なエネルギー管理のための方式の具体化を含め、政策的に重要性の高い研究開発である。
- IoT が注目されるようになる中でエネルギーマネジメントにターゲットを絞った研究開発を先行して行っており、当初計画時以上にその意義が強まっている。
- 標準化提案の達成や 1000 戸でのシミュレーション等、広域への可能性を示している。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

ビジネス化に向けた研究マネジメント体制に課題が見られるものの、プロトコルの開発、国際標準化、実証フィールドの構築等を関係者が連携して効率的に実施しており、また、実証実験を当初目標を超える規模で実施した点を評価。

(コメント)

- IoT の研究では対象分野の製品のビジネスモデルが大きな要素となるが、そのような企業を加えた研究マネジメントが不足している。
- 研究内容を広く対応しており、良好。
- プロトコルの開発、国際標準化、実証フィールドの構築のすべてを、メーカーと大学の協調により効率的に分担して実施しており、また、特に実証実験については当初目標を超える大規模で実施された点を評価。

(3) 研究開発成果の目標達成状況

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

当初の開発目標を達成し、国際標準化についても大きな成果を挙げている。また、地域コミュニティ全体における省エネの提案について、良いケーススタディの結果が得られている。

(コメント)

- 当初の開発目標を達成、標準化も大きな成果を上げた。今後の社会展開に努力が求められる。
- HEMS を中心にしているが、地域コミュニティ全体でのバランスまで考慮した省エネ利用を提案できしており、良いケーススタディの結果が得られている。
- 課題アと課題イの両方で ITU において国際標準の制定にまで期間内に到達できていることは大きく評価できる。

(4) 研究開発成果の社会展開のための活動実績

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

国内外における標準化の実施や、開発したシミュレータのオープンソース化を進めている点を評価。一方、学術発表件数が不足。

(コメント)

- ITU-T 等での多様な標準化だけでなく、ソフトウェアのオープン化も進めている。しかし、査読付き

- 誌上発表がない。
- 標準化での貢献、オープンソースの利用可能化等を実施している点を評価。
- 国際標準化に加え、国内標準の策定やシミュレータのオープンソース化に向けての準備等を評価。

(5) 研究開発成果の社会展開のための計画

(5～1の5段階評価) : 評価3

(総論)

成果展開の計画は妥当であるが、家電メーカー等への働きかけ等、研究開発成果の社会実装に資する取組について更なる充実を期待。

(コメント)

- 標準化が進められた後、家電メーカー、住宅産業等への働きかけが更に進められることを期待。
- 研究的取組のみで終わらず、実サービス、実省エネを社会実装できるような今後の取組を期待。
- 成果展開に向けての計画は妥当であるが、家電メーカーとの協力等を更に充実していくことを期待。